

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 5 日 (2007.7.5)

【公開番号】特開 2006-144231(P2006-144231A)
 【公開日】平成 18 年 6 月 8 日 (2006.6.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-022
 【出願番号】特願 2004-331586(P2004-331586)
 【国際特許分類】

E 0 4 F 13/073 (2006.01)

E 0 4 F 19/04 (2006.01)

【F I】

E 0 4 F 13/08 1 0 1 Q

E 0 4 F 19/04 1 0 1 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 5 月 22 日 (2007.5.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 6】

このようにすることにより出隅部材は、出隅部材本体に可動部材を嵌合させた状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成される。この切込み位置で出隅部材を折り曲げることができる。このとき、舌状片を嵌合部の前面から内側に位置させて、または嵌合部の前面より内側に位置させて内側方向に向って形成されるので、出隅部材を折り曲げたときに折り曲げ部分において舌状片は互いに干渉することなく、互いに重なり合って折り曲げられる。さらに、舌状片は嵌合部に延在するので、嵌合部を出隅部材本体に対して下方にスライドすることにより舌状片を床面に当接させることができ、壁や建具の下端と床面との間の隙間を単純な構造で覆うことができる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 8】

このようにすることにより、出隅部材本体に可動部材を嵌合した状態で、これら二部材の裏側に折り曲げのための切込みが形成される。この切込みの切口に接着剤を塗布した後折り曲げて出隅の角度に適合するように形成することができる。さらに、出隅部材本体と可動部材との可動面に接着剤が付着しないように接着剤が塗布されるので、可動部材は出隅部材本体に対して上下方向にスライド可能である。したがって、可動部材を下方にスライドさせて、その下端が床面に当接するようにすることにより壁や建具と床面との間の隙間を隠すことができ、出隅部材の施工が簡便である。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

さらに、出隅部材本体 2 と可動部材 1 0 との可動面に接着剤が付着しないように接着剤が塗布されるので、可動部材 1 0 は出隅部材本体 2 に対して上下方向にスライド可能である。したがって、可動部材 1 0 を下方にスライドさせて、その下端が床面 2 9 に当接するようにすることにより壁や建具と床面との間の隙間を隠すことができる。